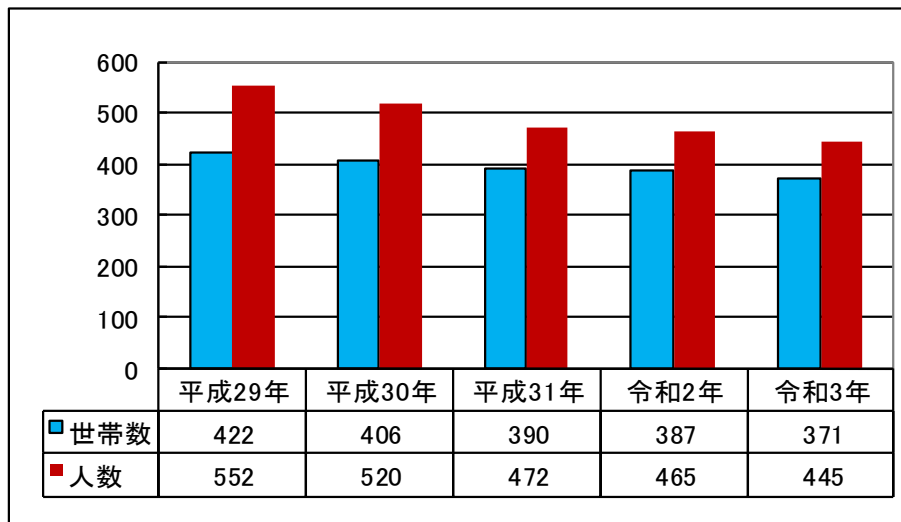


5. 社会福祉、保健、環境

(1) 生活保護の状況

① 生活保護世帯、人数の推移

各年4月1日現在



生活保護の受給世帯数、人数は、ともに緩やかに減少している。

② 生活保護の実人数及び保護率の割合（令和3年12月末）

	実人数(人)	半島における割合(%)	県における割合(%)	保護率(%)
島原市	453	33.23	1.7	1.06
雲仙市	569	41.75	2.1	1.40
南島原市	341	25.02	1.3	0.83
半島3市	1,363		5.1	1.10
長崎県	26,571			2.05

島原市は、長崎県内と比較すると、実人数に占める割合は約1.7%程度である。

島原市福祉事務所管内の保護率は、県内17の福祉事務所のうち、3番目に低い水準となっている。

(2) 保育所・幼稚園の状況（島原半島3市、令和4年1月1日現在）

	施設数(園)(※1)				半島での施設設置割合(%)	入園児数(人)				半島での入園児数割合(%)
	計	保育所	幼稚園	認定こども園		計	保育所	幼稚園	認定こども園	
島原市	26	19	0	7	30.6	1,831	1,138	0	693	36.4
雲仙市	28	21	0	7	32.9	1,628	1,046	0	582	32.4
南島原市	31	23	0	8	36.5	1,570	1,011	0	559	31.2
合計	85	63	0	22	100.0	5,029	3,195	0	1,834	100

半島3市の中で、島原市は、施設数が最も少ないが、入園児数は多い。

(※1) 施設数は、休園中の園を除く。(島原市：幼稚園2園、雲仙市：保育所1園)

(3) 医療の状況

① 医療施設（精神科病院及び一般診療所を含む） ※令和元年10月1日現在

	病院数	病院数の半島内割合(%)	病院病床数(床)	病床数の半島内割合(%)	人口対千人病床数(床)
島原市	49	39.5	1,310	48.9	30.1
雲仙市	40	32.3	780	29.1	18.7
南島原市	35	28.2	591	22.0	13.7
半島3市	124		2,681		20.9
長崎県	1,520		29,366		22.2

島原市の医療施設数（病院、病床）及び人口対千人当たりの病床数は、半島3市の中で最も多く、人口対千人当たりの病床数については長崎県と比較しても多い。

② 医師数 ※平成30年12月末現在

	医師数(人)	医師数の半島内割合(%)	人口対千人医師数(人)
島原市	118	48.3	2.7
雲仙市	78	32.0	1.8
南島原市	48	19.7	1.1
半島3市	244		1.9
長崎県	4,108		3.1

島原市の医師数及び人口対千人当たりの医師数は、半島3市の中で最も多いが、長崎県と比較すると少ない。

③ 歯科医院・医師数 ※平成30年12月末現在

	歯科医院数	医院数の半島内割合(%)	歯科医師数(人)	医師数の半島内割合(%)	人口対千人歯科医師数(人)
島原市	28	38.6	41	39.8	0.9
雲仙市	23	30.7	35	34.0	0.8
南島原市	23	30.7	27	26.2	0.6
半島3市	74		103		0.8
長崎県	729		1,192		0.9

島原市は、どの項目も半島3市の中で最も多く、人口対千人当たりの歯科医師数は、長崎県と同等である。

④ 薬剤師の状況

※平成30年12月末現在

	薬剤師数(人)	薬剤師数の半島内割合(%)	人口対千人薬剤師数(人)
島原市	109	52.7	2.5
雲仙市	57	27.5	1.3
南島原市	41	19.8	0.9
半島3市	207		1.6
長崎県	2,925		2.2

島原市の薬剤師数及び人口対千人当たりの薬剤師数については、半島3市の中で最も多く、県と比較しても多いことがわかる。

(4) ごみの状況

① ごみの排出量とリサイクル率（令和2年度）

	年間排出量(t) (※1)	一人1日当たり排出量(g)	リサイクル率(%) (※2)
島原市	18,706	1,152	20.0
雲仙市	15,526	994	14.5
南島原市	16,607	1,020	18.8
半島3市	50,839	1,056	17.9
長崎県	474,606	972	15.9

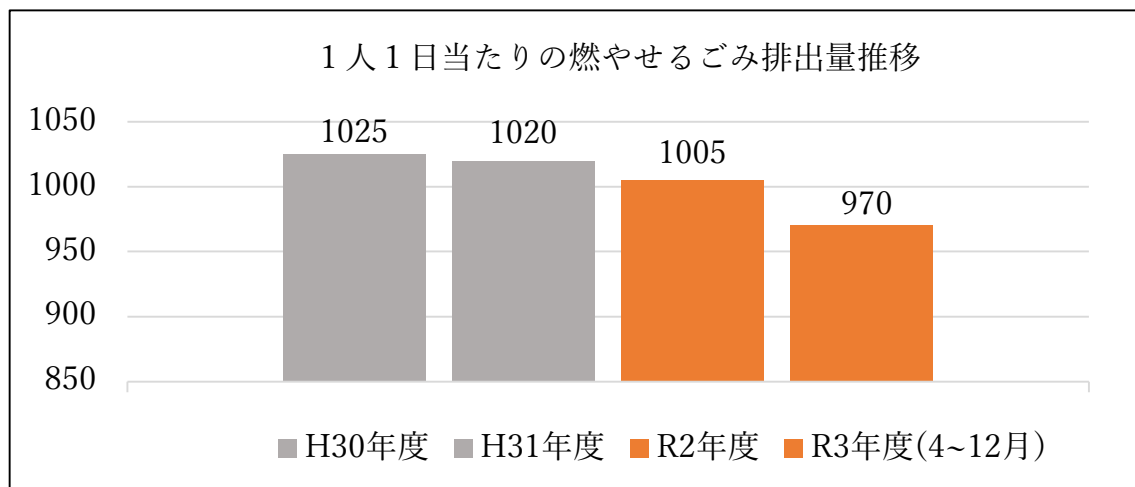
島原市のごみの排出量は、半島3市の中では最も高いが、リサイクル率も高い。

(※1) 年間排出量・・・可燃ごみ、資源・不燃ごみの合計

(※2) リサイクル率・・・廃棄物からの資源回収率のこと

② 4万人のごみ減量プロジェクト

(単位：g)



島原市では、1人1日当たりの燃やせるごみ排出量を850gに抑えることを目標として、令和2年4月に「4万人のごみ減量プロジェクト」をスタートした。平成30年度の排出量から、1人1日缶コーヒー1本分(175g)を削減できれば目標達成となる。

令和3年12月時点で55g減量。目標まであと120gである。